

かがやけ

むつみっ子

～学校だより「かがやけ むつみっ子は
むつみ小の子どもたち、教職員の輝く姿をお届けします

むつみ小学校だより
令和2年11月5日

読書への取組を紹介します！

10月19日から11月1日は、読書週間でした。本校では、次のような取組をしました。

☆図書室の利用促進・・・期間中に学級で図書室を利用し、本を貸し借りする機会を設定しました。

☆読書記録・・・期間中、めあてをもって読書を行い、できたら色を塗ります。合わせて、読んだ本の記録も同じカードに書きました。

☆「読書の木」の作成・・・読書をした後、葉の形をした紙に、題名と一言感想を書いて貼り合わせていきます。だんだんと、読書の葉が、茂っていきます。(継続)

☆家庭読書の推進・・・読書週間の期間中、家庭学習の一つに読書を取り入れました。合わせて、「親子読書」の願いをしました。ご協力ありがとうございます。

読書をすることで、自分が登場人物になったつもりで、物語の世界を楽しんだり、文字や写真を通して、これまで知らなかったことを知ったり、目的をもってある事柄について調べたりすることができます。その過程を通して、心が豊かになったり、知識が身に付いたりします。

例えば、小説には挿絵がありません。文字を読むことによって、自分の頭の中に、場面や人や感情をイメージしていきます。想像力も豊かになりますね。また、言語力を伸ばすこともできます。多くの言葉を知り、活用することで、言葉を使って思考することが増え、自分の思いを多彩な言葉で伝えることができるようになります。読書をしようと思ったら、少し静かな集中できる環境を求めます。そのことが、生活の中に落ち着いた時間をもたらします。

「家庭読書」の取組として、家族の方と一緒に読書に親しむ機会を設けていただきたいという願いをしました。実行するには、少し時間の調整が必要かもしれませんが、短い時間でもその時間を楽しんでいただくことで、よかったな・・・と感じていただけると嬉しいです。

今年度は、学校評価の項目にも「読書の推進」を入れました。子どもたちに今必要とされている学力を身に付けるためにも読書は有効です。そして、きっと大きく広く生きる力につながると思っています。(今回、両面とも文字が多くて・・・すみません。)



むつみ小学校の先生方の、「読書体験」や「読書への思い」を載せたいと思います。

教頭先生曰く(その1)…「心に読書と思索の暇をつくれ！」

暇(時間)が無いわけではない。無いのは心の余裕かもしれない。

新しい本を読むときは、なぜだか40ページを一気に読む。たぶん、自分の集中が続く時間だと思う。

小説だとはじめの10ページは、ゆっくり、じっくり読む。全編を通す背景が描かれていることが多いから。推理小説だとこのあたりに最初の罠が仕掛けてあるから。

面白くないとすぐやめる。やめる勇気をもつ。面白い(=興味がある)と一気に読んで、次に読みたくなるところでいったん本を置く。ここで余韻を楽しみ、次に開きたくなる喜びを味わう。

同じ傾向の本を、4冊を限度に読み込む。それ以上は飽和状態なので効果が薄いように思う。この段階で、自分の言葉に置き換える。歩きながら(散歩)、寝る直前の布団の中で、本の世界をイメージして、夢に出るように楽しむ。

一冊の本で一つのことでいいから、自分の言葉で言えるようにする。言えなかったら、つまらないものなのか、まだ理解できる段階になっていないのかもしれない。

椅子に座ってじっと読むことはしない。寝転んでゆったりと読む。若い頃は読書記録をとっていたが、今はしない。カバーを外し、ページがめくりやすくなる。気になるところのページは折る。でも、ほとんど二度と読み返すことはない。ということは、速読ではなく、自分の中に落とし込むように読む。一期一会かもしれない。だからこそ、心に残った文脈を大事にしている。二度と読み返すことはないけれど、読み返すべき本を生涯に一冊はほしい。

散歩をすると(同じ時刻、同じルートで)頭の中に本の内容がすっきりと理解できることがある。わたしにとってとても大好きな貴重な時間である。散歩(=習慣)は、習慣化すると歩いていても危険を感じないので思索にはよい。(これがたぶん哲学の道といわれるものかもしれない)だから、読書と共に思索の暇が生きる読書につながるのかもしれない。


でも、結局「読書」はすばらしい贅沢かもしれない。

☆☆親子読書の思い出(ときか家のこと)☆☆

私自身は、絵本は大好きですが、小説のように文字が並んでいる本を読むのは苦手な方です。我が子が小4のとき、ハリーポッターシリーズが始まりました。世界的にヒットする中で、子どもが「ほしい」というので、「読めるのかな…」と思いながらも、買ってみました。面白そうに読んでいたので、それなら…と、自分も読んでみました。結構苦悩しながら成長していくハリーの様子や、ハリーを取り巻く人々の思いに感動しながら、思わず短時間で読んでしまいました。その後映画にもなり、「あのシーンは、本の方がよかった！」とか、好きな場面が映画にはなかったよ。」などと話したことも思い出です。…もう20年かあ。

その子どもが、この夏、久しぶりに私にある本を薦めてきました。「絶対泣くよ！」と。読み始めるまでにちょっと時間はかかったのですが、予測通り泣きながら読みました。子育て中には苦しいこともありましたが、こんな親子のつながりをうれしく感じました。(ときかの長いひとり言です…ちなみに本は、原田マハ著『本日はお日柄もよく』でした。)

それぞれの、読書…いかがでしたか？次回、教頭先生曰く(その2)を掲載予定です。

むつみ小ホームページ！更新中！！ 「萩市立むつみ小学校」 で検索できます。